

か 掛 け 札 一 覧 表

	表示年	掛 札 の 表 題	板材の大きさ	注 釈	備 考
①	明 治 1 4 年 (1 8 8 1) 2 月	獅子太鼓 太鼓臺共寄附 録	1 8 5 4 × 2 8 0 mm	獅子頭・太鼓を取得するため、明治12年 から3年間にわたり村内各戸から玄米の寄 附を募った成果の記録・報告	①～⑦は令和2 年10月秋祭り準 備中の青年部員が 出村公会堂の天井 裏で発見した。 〔 同月中に元の 場所へ格納 〕 ②に「款待社」 の記載があり、だ んじりの台車裏面 にも「款待社」の 記載があるが、当 時の各村落にあっ た壮年層の自治組 織のことである。 また、③④⑤に 「精隆社」の記載 があるが、精隆社 については富山学 区のホームページ に紹介があるので 参照されたい。
②	明治14年 (1881)	求買録 土蔵新築費用記録	1 8 5 4 × 2 8 9 〃	秋祭り関連用品(太鼓、獅子頭等)の新調・ 修繕関連経費の記録・告知 土蔵新築関連の労務・材料費の記録・告知	
③	明治28年 (1895) 4 月	購求品目録	1 8 8 2 × 2 4 6 〃	明治28年2月に創設した(と思われる) 富山村精隆社の創設関連品購入品目の目 録・告知	
④	明治28年 (1895) 8 月	倉庫柵建築費用記	6 2 0 × 2 3 0 〃	「倉柵」が何なのか、②で新築した土蔵を どうかしたのか、はたまた別の倉庫なのか 分からないが、倉柵に要した建築費の記 録・告知	
⑤	明治32年 (1899) 1 月	掲示(唧筒購求)	1 8 5 0 × 3 0 5 〃	出村が消防ポンプを購入した時の寄付金の 記録・告知。「内訳」には『唧』が1文字し か読めなかったが、唧(しょく)には水鉄 砲との意があり、消防ポンプと解明した。	また、③④⑤に 「精隆社」の記載 があるが、精隆社 については富山学 区のホームページ に紹介があるので 参照されたい。
⑥	大正 6 年 (1917) 3 月	大師堂改築寄附	1 9 2 5 × 2 9 1 〃	現在の地藏堂の西に、南北方向に建ってい た旧大師堂(明治以前の建物であったと思 われる)の改築関連の寄附金等の記録・告 知	
⑦	大正 6 年 (1917) 3 月	共同蔵移転寄附人夫表	1 9 3 8 × 3 1 0 〃	「共同蔵」とはどこにあった倉で、その倉 をどこに移転したのかさっぱり分からない が、その移転作業を村人総出で勤労奉仕し た記録・告知だと思う。	
⑧	大正 9 年 (1920) 9 月	地藏堂再築寄附連名	9 5 9 × 3 0 0 × 2 枚	再築とあるからこの地にあった地藏堂を建 て直したときの寄附者の記録・告知。 平成30年の再築時、旧お堂の北面内壁に 釘止めしてあるのが発見された。	大師堂の祭壇下の 「保存伝承函」 で保管している。

参 考

昭和以降の公共建物の新・改築・修繕記録

	表示年	掛け札の標題	板材の大きさ	注 積	備 考
1	昭和41年 (1966) 3月	出村公会堂新築(棟札)	200×700	この時代には「掛札」の手法はないが公会堂の天井裏の柱にこの棟札が釘留めしてある。	棟梁 湯浅廣吉 湯浅芳夫
2	平成11年 (1999)	大師堂内外壁上塗 改修工事費寄進者録	857×275	昭和30年頃に現在地へ移築したと思われるが、内外壁共に荒(土)壁ですきま風がひどく、住民の寄進によって外装(鉄板)及び内装(漆喰)左官工事をしたときの寄附記録。 このときは決算報告をし、掲示などはせず。	大師堂の祭壇下の 「保存伝承函」で 保管している。
3	平成30年 (2018)	地蔵堂再築経費寄進者 名簿	A4判普通紙に 金額と氏名を印刷	6地域団体+547世帯、合計187万円の寄附をいただき、回覧で決算報告と謝意を伝えたが、個人情報の保護が言われる世情もあり詳細一覧は公表せず、タイムカプセルに入れて地蔵堂の天井裏に保管した。	再築に寄せられた 多勢・多額の芳意 を末長く将来へ伝 えたい。

↑ (注) 2, 3については近年のことでもあり、氏名と寄附金額に関する情報は公開していません。